

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科(昼夜間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法		講義	
科 目 名	聴覚心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15	(1) 時間(単位)	
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	401		
担 当 教 員	辻 一功	実務経験と その関連資格	言語聴覚士、認定補聴器技能者として補聴器外来や聴覚リハビリテーションに携わっている。					
《授業科目における学習内容》								
物理的な「音」が人間の聴覚システムを経由した時にどのように感知されるかを修得する。								
《成績評価の方法と基準》								
小テスト・中間試験(30%)、学期末試験(70%)								
《使用教材(教科書)及び参考図書》								
使用教材 聴覚障害学4版 医学書院 参考図書 Psychoacoustics: Facts and Models Springer								
《授業外における学習方法》								
予習及び復習を行うことが望ましい。								
《履修に当たっての留意点》								
どのような実験を通して聴覚心理学が成立してきたかも紹介するので、そのような実験をした時に自身も理論通りに感じるのかを考えながら理解を深めてください。								
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容			
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚心理学の概論について理解し、説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと			
		各コマにおける授業予定	音の三要素や音響学の基礎などについて学ぶ					
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚系の解剖・生理について理解し、説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと			
		各コマにおける授業予定	外耳・中耳・内耳・後迷路の解剖・生理などについて学ぶ					
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	音の大きさについて理解し、説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと			
		各コマにおける授業予定	ラウドネス、フォン(phon)とゾーン(sone)などについて学ぶ					
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	音の高さについて理解し、説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと			
		各コマにおける授業予定	ピッチ(pitch)、メル尺度、時間説、場所説などについて学ぶ					
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境騒音や弁別閾について理解し、説明できる。小テスト。	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと			
		各コマにおける授業予定	騒音計、ウェーバーの法則などについて学ぶ、小テストの実施					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 時間的パターン、聴覚の周波数分析について理解し、説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと
		各コマにおける授業予定 クリック音、聴覚フィルタ、マスキング、周波数分解能や時間分解能などについて学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 両耳聴の性質について理解し、説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと
		各コマにおける授業予定 両耳聴、音源定位などについて学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 聴覚疲労、難聴などの影響について理解し、説明できる	教材、配布資料、スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと
		各コマにおける授業予定 聴覚疲労、聴覚保護、聴覚順応、リクルートメント現象などについて学ぶ		
第9回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第10回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第11回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第12回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第13回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第14回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第15回		授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		